６月　園だより

社会福祉法人まりも会
まりも保育園
2022年６月

唐突ではありますが、「子どもの権利条約」をご存じですか？1989 年に国連で制定され、日本が批准したのは 1994 年でした。先日、この「子どもの権利条約」について学ぶ機会があり、是非みなさんにもお伝えしたい内容でしたので、紹介させていただきます。

「子どもの権利条約」とヤヌス・コルチャック

「子どもの権利条約」の制定にはポーランドのヤヌシュ・コルチャック（本名 ヘンルイック・ゴールドシュミット）が深く関わっています。コルチャックは、子どもの権利条約の基本となる考え方、を発案し、実践した人でした。ポーランドでは、第２次世界大戦中に６００万人の国民、うち子どもが２００万人も亡くなりました。コルチャック自身も約２００人のユダヤ人の子どもたちと最後まで共にし、１９４２年、全員銃殺されました。

こうして、戦後、ポーランド政府は「子どもの権利条約」の制定に尽力することとなるのです。

度重なる戦争と繰り返される革命という激動の時代にあったポーランドで生きるコルチャックは、厳しい生活の中で社会の底辺にいる子どもたちのために学校と家庭の役割を持つ「ホーム」を運営します。

ホームには約２００名の子どもたちが暮らしていました。

ホームの中にはもちろん勉強を教える先生や、お世話をしてくれる大人がいたのですが、コルチャックが最も大切にしたのは、「子どもたちの自治」でした。

ホームには、子どもたちによる「子ども議会」「子どもの裁判」「子どもの法典」という３つの柱になる活動があり、ホームで何か問題が起こったときに、子どもたち自身が自分たちで問題を解決していく仕組みがありました。

映画「コルチャック先生」の中では、この子どもたちの生活の様子が豊かに描かれています。あるシーンでは、子ども裁判にかけられた先生が、怒ってコルチャックに文句を言う場面があります。

コルチャックは、子どもの自治を大人が尊重すること、子どもは大人と同じように、自分の考えと判断を持っていること、そしてその判断をサポートすること、信頼することが大人の役割であることを諭すのです。

２つの”生”があるらしい
①　彼ら、大人の尊い、立派な、いのち　ほんとうの人生
そして
②　僕ら、子どもの見せかけだけの、いのち　大人の楽しみのための人生

小さくて、かよわい子どもは、大人にとっての
気晴らしにすぎない
こんな浅はかな考えがどこから生まれたのか
子どもは未来の人間にすぎないなどと
いつか存在に値しようなどと

いま、現在　まるで存在しないかのような
これは何を意味するのか
子どもたちは生きていないのか
子どもたちは何も感じていないのか
子どもたちは悩まないのか
大人のように

「コルチャック先生」より　　近藤康子　岩波ジュニア親書

以上

子どもも大人も同様に、「今（自分の人生）を生きる主体者である」という、ごくごくあたりまえの事のようで、時にまったくそうなっていない「子どもの権利」について、私たちは、いかなるときも、自身に問い続けていかなければいけません。

これからも、迷いながら、悩みながらも、100 年以上も前から受け取った大切な、大切な教えを、自分なりに実践していきたいと思います。

受診をともなうケガについてご報告させていただきます

- □　他児との接触による。
- □　玩具を噛んだことによる。
- □　打撲による。

歯科受診３件（５歳児男児）→経過観察

８月の予定			9月の予定		
1	月	身体測定	未定		避難訓練
9	火	保育協力日	5	月	身体測定
～		うち、12(金)・13(土)・15(月)→弁当日	28	水	誕生会
15	月		検討中		クラス懇談会
18	木	避難訓練	中止		敬老の日のつどい
31	水	誕生会			
26	金	プール終い			
27	土	夏祭り（3-5歳児）			